

寛永諸家譜

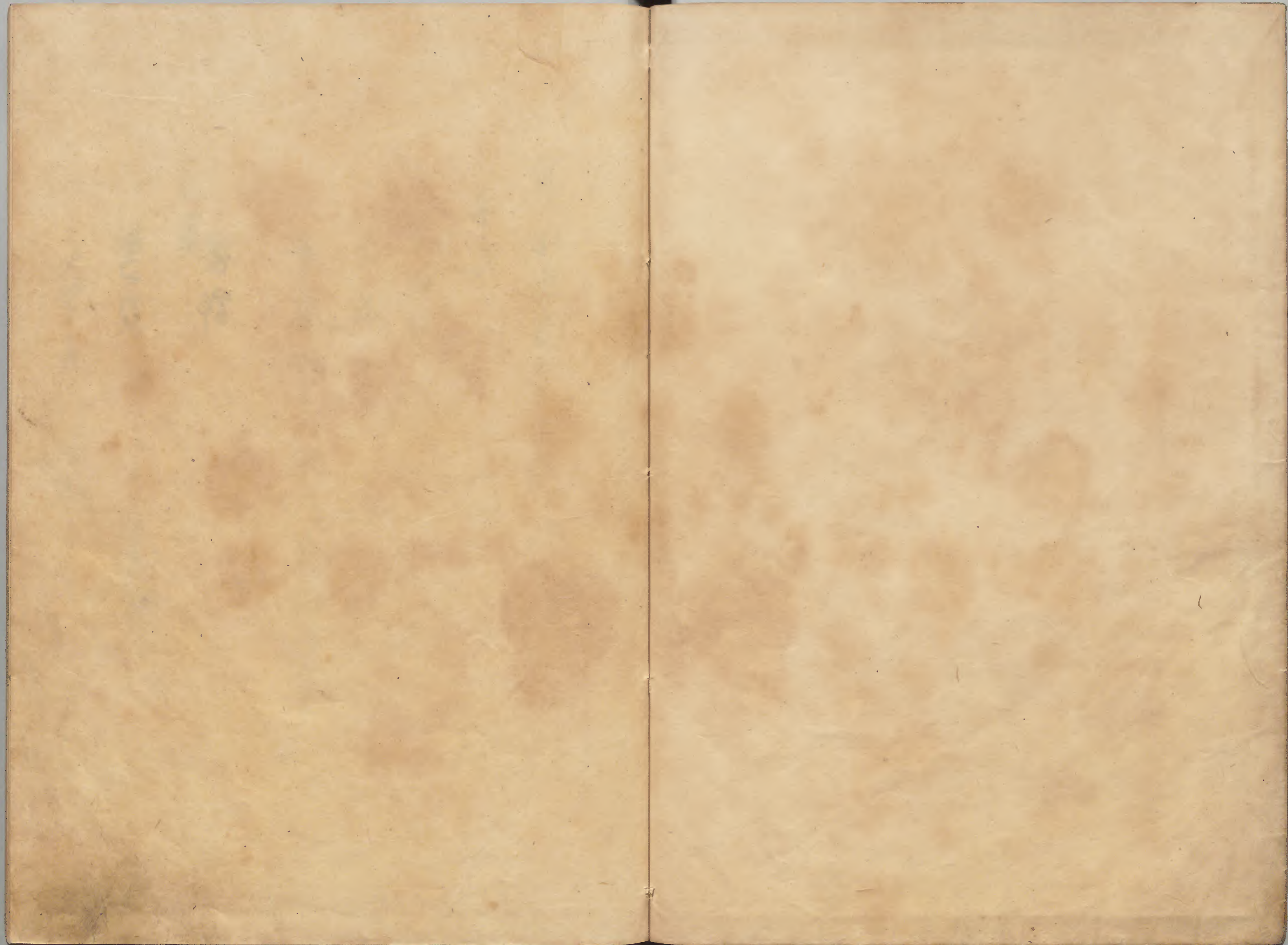
平氏十九冊之内  
北条流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 ( 67 )
函號	特 76 1



Kodak Gray Scale  
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19  
Kodak, 2007 TM, Kodak





高刀

墨野

平野

寛永諸家系圖傳

平氏

小條流

高刀

三河國十六騎乃其源一なり

● 貞實

能登次郎

法名蓮生

高野聖王の  
後胤なり

淺草文庫

直家ちか

小次郎

直守ちか

又次郎 武列 熊岳の郷 一 伯也

直忠ちか

忠守ちか

直守ちか

又次郎

直鏡ちか

又次郎

俊中とよなか

元弘三年 尊氏六波羅と 延治一  
上流に時 其勇傑の古十六騎と  
え 直鏡も 一とあり 佐々  
教度軍功あり 一とあり 八  
名 親と 一とあり 一とあり 居宿と  
法名生観

重氏ちゆうし

又次郎

氏初太補しんぶのたほ

守直しうぢく

清重きよしげ

其後次郎そのごの

其高そのたか

實家じつけ

新次郎

永享十一年えいこうじゅういちねん若根合戦わかねあはせ討死うらひ

長直ちやうぢく

守實しうじつ

新次郎

又次郎

其高そのたか

實長じつちやう

其庫入道そのくらにうぢ連貴れんき

正妻

梁田新三と号して三列高力に郷  
居候也

守長

高力に次郎 備中守  
冬列高力の郷に居候也  
ちりめく高力氏とたなり母は

梁田と次郎がむしめ

清康君一つふまら

天文四年十月 清康君物吉に

織田備後守三列にお法とけと

守長伊田郷とひく討死法名

道蓮

安長

新三母は小笠原新平が女

天文四年十二月父守長しげながの四よ一いちく  
伊田郷いのだの郷よりよりととひひくく討死うちし 法名ほつな道院みちいん

守正しげまさ

新九郎しんくわう

天文六年 唐患ひらひら郷の郷之列のり是時このとき乃すなは城を  
入いりりてて時ときふふ命いのちとと肯さしくく志の入い事こと  
をを先まゆゆりり志しめんめんとと守まもりり正ただししままややく  
馳はせせりりとと走はりり城をととちちりりとと軍いくさ功こう

あり故ゆゑ一いち一いち感かんとと一いち一いち事こと  
永禄二年五月尾外おしそと大おほ高たか城を  
ととひひくく討死うちし

女子むすめ

岩堀いわほり勘かん右みぎ中なかつ左ひだり衛門ゑもんがが妻つま

清長しげなが

新あらた之の 与よ左ひだり衛門ゑもん  
河内かみの守まもり  
母はははは板いた倉くら氏うぢ

乃むしあ

天文四年 主長 安長 ありし

伊田郷 一とひく 討死 討死 清長

六歳 ありて 孤 ありし 伯父 守正

一書 ありし ありし

東照大権現駿府 ありし ありし 西と清長

ありし ありし

永禄三年 五月 尾列 大高 元就

一 徳下の 高名 ありし 一 甲首 一級 あり

うちと家

同六年 三列 ありし 一 白糸 乱 あり

ありし ありし

大権現 伊豫代 の士 ありし 一 撥 あり

屋 在 然 ありし 清長 同 ありし 恩 あり

勝乃 城 ありし 勲 仕 ありし 軍 功 あり

ありし 又 戸 呂 一 向 ありし 清長 ありし あり

カ 此 郷 ありし ありし ありし ありし

大権現 伊豫 ありし ありし ありし ありし



在為右れ後後地一を乞く割法  
を定なく佛像經卷を紛失せしむ  
て拾獲免許乃時う乃中廢し也  
是うううく國民みる佛高力と  
移とうれ時

大権現沙感呪あり

日七手三列雲濟一をひく奉  
職と心

日十一年

大権現遠列と征伐一給し時供奉

日國久野孔城一換舞部と

大権現ととりつくと是と少せきたる

時清長後滋とありうれち濱松

古城本丸一居と時

大権現本多能た集り天守之と來し

清長一命一と之とありと

元龜二年茂田信玄之方原

あはれ

大権現台を祀るに合致したる  
清長と力再し家子と引率を  
批致し種族をうまふに時一族  
岩堀勘兵衛中左衛門父子郎兵衛十人  
討死也

天正八年幸列馬伏塚に味と居り  
福田と領也

同十年

大権現沙上海ありく泉列うしよ

中一海と村の智京都ふとく佐長  
を討ふに飛脚ありく若きるは

大権現明智とうたんとあ之列し海り

清長殿と小荷結をり

中一海と村の智京都ふとく佐長

道中とありしはへる清長教度

返合追拂し鉄炮疵とかりぬ故よ

名と金して之列大演し一隊ふ

同年八月駿列田中し城と居り

山西を領む

同十二年秀吉

大指現と和贍孔時御使よりて上あり

是よりより秀吉較度威状と爲る

同十四年秀吉豊后州を領む

後立位下り叙一河内中より領む

同十六年

大指現清長より取樂州遠征あり

なるに清長を教是と爲る

をこたうとせり乃ち秀吉

大指現乃新亭より入河あり

造作ふ日ありて莫西舞なるあり其

勅切を敷く清長をより新前立國光

乃脇指を領む

同十八年水糸氏改職あり

大指現用東八列と叙し給ふ故に清長

茂列忌付乃城二弟をとり清長

城高浦和州郷の年貢一石代宿と

清長より信長より宛てられたる書状に「清長村に  
ては、所故家人中村源右衛門一命と  
く浦和の郷の代官とありて、本年夏  
と志保の城より納まりて、すくふは  
れ宿舎より中村と宿舎より、  
まうとありて、私に伝へて、まう

同年九月秀吉、關東進發の時、志保  
の城より入信、清長是と郷にありて、  
秀吉、志保の萩花とありて、信守と録

ト、是をき、ゆふすぐありて、秀吉  
田原の西に、後列田中乃城とあり、時  
清長、志保子、田中の城よりあり、秀吉  
城、田原、換るとあり、  
く、まうとあり、  
く、まうとあり、

大指、現れ、信をり、  
ま、やく、信、  
書、ま、く、美、様、  
く、酒、  
く、酒、  
く、酒、

秀吉是と感<sup>かん</sup>は是より毎年清長<sup>せいなが</sup>  
書<sup>か</sup>れ方<sup>かた</sup>より進<sup>しん</sup>物を献<sup>けん</sup>じ

文禄元年秀吉朝鮮<sup>しんせん</sup>國と征<sup>せい</sup>代<sup>だい</sup>と  
大権現も申<sup>まを</sup>る形<sup>かたち</sup>ある名<sup>な</sup>古<sup>こ</sup>屋<sup>や</sup>よりとり  
たまふ時<sup>とき</sup>より

大権現清長より命<sup>いのち</sup>より朝鮮<sup>しんせん</sup>海<sup>うみ</sup>乃  
江<sup>え</sup>道<sup>みち</sup>の奉<sup>ほう</sup>じとなさしむ

大権現<sup>おんけん</sup>冥<sup>めい</sup>東<sup>とう</sup>還<sup>えん</sup>法<sup>ぽう</sup>に故<sup>ゆかり</sup>清長<sup>せいなが</sup>九<sup>く</sup>列<sup>りつ</sup>より  
他<sup>ほか</sup>分<sup>ぶん</sup>取<sup>と</sup>れ取<sup>と</sup>れ費用<sup>ひようぎん</sup>の勤<sup>けん</sup>辨<sup>べん</sup>とこふ

大権現<sup>おんけん</sup>れ<sup>れ</sup>信<sup>しん</sup>より海<sup>うみ</sup>の村<sup>むら</sup>淳<sup>じゆん</sup>直<sup>ちく</sup>より何<sup>なに</sup>が是<sup>これ</sup>  
を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>や<sup>や</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>も<sup>も</sup>ふ<sup>ふ</sup>志<sup>し</sup>くれ<sup>れ</sup>も

清長<sup>せいなが</sup>よりくふ是<sup>これ</sup>と勤<sup>けん</sup>つ<sup>つ</sup>其<sup>その</sup>あ<sup>あ</sup>り  
取<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>黄<sup>わう</sup>金<sup>きん</sup>二十<sup>じゅうに</sup>枚<sup>まい</sup>と也<sup>なり</sup>より

大権現<sup>おんけん</sup>れの<sup>れ</sup>海<sup>うみ</sup>に<sup>に</sup>我<sup>われ</sup>海<sup>うみ</sup>よりを<sup>を</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>  
ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>た<sup>た</sup>り何<sup>なん</sup>が是<sup>これ</sup>と細<sup>こま</sup>り<sup>り</sup>ん<sup>ん</sup>や<sup>や</sup>

くす<sup>くす</sup>ら<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>黄金<sup>わうごん</sup>と清長<sup>せいなが</sup>より  
萬<sup>まん</sup>長<sup>ちやう</sup>三年<sup>さんねん</sup>秀吉<sup>しうきち</sup>物<sup>もの</sup>遊<sup>ゆう</sup>去<sup>き</sup>れ<sup>れ</sup>時<sup>とき</sup>造<sup>ぞう</sup>物<sup>ぶつ</sup>より

清長<sup>せいなが</sup>より黄金<sup>わうごん</sup>と給<sup>たま</sup>り<sup>り</sup>向<sup>むか</sup>へ<sup>へ</sup>く書<sup>か</sup>

くも又英令とすし海とす

日十二年正月二十六日七十九歳

く卒とす 快克院と号す法名

道結

正長

と次郎 指左衛門 吉作とす

母は河部通金の女

元龜之年幸列之方尔令裁し母

と更なると挑りとし疾を遂り甲首

一級とすと時小正長十五歳たり

天正二年五月武田勝頼之列を藤

と張と定長と

大権現日と會しと大に裁すと

正長勝頼に先務と奥津某と討取

同年九月武田勝頼に討取

幸列は小山乃城と張と

大権現野ととと章ととと濱と

乃城よ一入らんとし、時ときなり  
勝かちれ先陣せんじんありと遊あそぶ正長まさなが再また  
目下いま於お中郎ちゅうらう八番はつばん引ひ込こめし、正長まさなが再また  
我われて甲首かうしゆ二級にきゅうと討うたぬ  
同十二年尾列びれつ長久ながく手合てあ戦せんれ時  
正長まさながのひひ、三宅みやけ孫次まごじ兼かみ持もち  
左ひだり馬うま督とく摺すりし、向むかへ甲首かうしゆ一級いきゅうと  
と討うたぬ

大指現怒おおいさげあらき海うみひく起軍おこぐんいしよとせり

うはらけ前敵ぜんてき乃な庵實あんじつとてかぐらん  
中ちゆう次じ總そうらり、汝なんぢ振しん驅くし軍法ぐんぽうと首くび  
とつゆふ是こゝし、しつとて女人おんな御ご勤きん  
氣きと憂うれひ難なん居いと志こゝろしつとて  
女人おんなこれ又また祖そ累るい代だい忠ちゆう切せつあり故ゆゑ  
大權現おほいけん四勅しよくと思おもはく本領ほんりやうし、後のち耳みみ

じ

同年十二月甲子どうねんじふにがつがつしよ日ひ甲子がつしよ日ひ賊ぞく中ちゆう國こく水すい津しん奥おく寺てら  
成なり改かへ潜ひそりしを列れつ演えん松しょうしつとて

大権現ト湯トキトクトマト

大権現是ト郷ト食ト無ト一ト生ト海ト村ト

正長トとト成ト政トとトりトみトくト宜トくト

此是ト高ト力トとト次ト郎トハト先ト程トりトこトれト

代トニト勇ト功ト孔ト士トカトリト成ト政トガトいトくト

大権現ト後ト代ト乃ト勇ト士ト多ト一ト諸ト國ト之ト及ト

とトりトりトあトりトすトとトりトはト時ト清ト長ト

後ト列ト田ト中トのト城ト一トありト正ト長トをト演ト極ト

ありト日ト和ト御ト前ト一ト勤ト任トとト

同十五年ト後ト府ト一トとトひトくト大ト河ト敷ト

頼トとトたトるト家ト

同十八年ト秀ト吉ト水ト糸ト氏ト政トとト進ト討ト

せんトがトたトめト岡ト東ト一ト下ト向トありト

大権現ト後ト府ト一トおト列ト小ト田ト原ト一ト進ト發ト

一ト孫ト子ト村ト一ト正ト長ト修ト年ト

安ト長ト四ト年ト三ト月ト辰ト五ト位ト下ト一ト叙ト

吉ト作トちトりト一ト何トとト

同日ト四月ト廿ト二ト日ト病ト死ト歳ト四ト十二ト

淨ト林ト院ト



通貴と号と

女子

帳部指大史が妻

忠房

長正四年六月  
長正長四年六月

白蓮院殿河津前

乃字と幸海より馬江次者河津の  
とお文とく又正長が遺跡と銘と

同五年七月

白蓮院殿河津前 真田表

時忠房依存一屯子河城の画位と

日九月に列より依存一京都

系系と院より実尔合我落者と

白蓮院殿河津前河津前河津前

忠房一命とあつけ一と大坂

をひくこしとけり武列  
岩鹿乃城一遺止

同十年七月

白鹿院殿河上河内時流力佐下一叙

左を太史一何止

同十四年二月岩鹿乃城矣上止

忠房するくら新に城部殿舎と遺

當止

同十二月

大権現岩鹿一御齋持一信乃城内

入流あり忠房これと速きくもつ

大権現乃殿舎と河内院ありと回祿

孔故つまといくたぐなつらり新築

こやくちつり此とあつ家とつひつ

べーとのつまよひ年一還流は忠房

が河内守長次と河内使少一と白銀

二百枚と忠房一とあ

日十九年正月大久保お権守取飲

あらわ 没收孔時 修しゆししりりくく 中ちゆう多たおおささるる  
牧野まきのとと大だい馬ま元げん儀ぎ整せい家け女にょ正せい松しょう平へい越えつ中ちゆうと  
ととししびび忠ちゆう房ぼう等らおお列れつよよ御ごりりおおももいい  
小せう田てん原げんのの味あじとと徳とく丸まる割わり法ぽうとと定さだむむ  
同どう年ねん十じゅう月げつ

白しろ蓮れん院えん敵てき法ぽう國こく乃の軍ぐん号ごうとと率りつししくく大だい坂さか  
しししししし進しん殺ころれれ時とき修しゆせせすす

元げん和わ元げん年ねん四し月げつ又また大だい坂さか乱らんととささしししし時ときよよ  
忠ちゆう房ぼう去き升しょう大だい炊くわい以もつ經けいしし一いち房ぼうとと

同どう五ご月げつ大だい坂さか擲てい泰たい良りやうとと燒やき拂はらししんんとと  
すすふふれれ風ふう聞ぶんありあり故ゆゑししりり

白しろ蓮れん院えん敵てき乃の画けい後ごととああせせぐぐんんががたたああもも升しょう  
市いちちちととししびび忠ちゆう房ぼうしし命めいししししくく是こゝとと  
ちちししししむむ

同どう五ご日にち宗そう良りやうとと志しけけりりくく又また大だい坂さかしし  
いいききしし家け

同どう七しち日にち合あ戦せんしし久く世ぜ之の田でん郎らうとと同どう城じやう中ちゆう  
地ち入い首くび母ぼ解よ級ききととししららしししし家け病びやう

城孔後

右徳院殿忠房より... 山田十太史... 奉山... 因... 一々... 乃... 削法と定とく

日三年江戸... 夢若... と

考

同五年九月... 演... 於

寛永十一年八月

將軍... 演... と

日十二年四月

將軍... 演... 忠房

佐舟十ふねぞしあしく 遷うつり御ごあり海うみ井い  
阿波あまのちのととび忠ちゆう彦ひこく命いのちとと日ひ光みつ  
く留とど垂た山さん中ちゆうの事ことと沙さ古こせせ心こころ  
是これよりよりああきき

白しろ旗はた院いん殿でん

將軍せんげん家け日ひ光みつ御ご系けい伯はく教けう度た佐さ舟ふねととつ

ととむむ

同どう十じゅう四し年ねんれ冬ふゆ水みづ前まへより久ひさ那な鴻こう原はら  
よりよりああるる人ひと乱らんとと行ゆくくてて糸いと井い珠しゆくく

きくくここもも西さい國こく乃の軍ぐん台たい等らう

將軍せんげん家け乃の信しんととつつりりくく是こゝととせせららううのの  
同どう十じゅう五ご年ねんれ春はる原はられ城しろ為な城しろ一いつ羽う津つのの  
後のちここももくく珠しゆ井い乃の四し月げつ忠ちゆう彦ひこ濱はら松しょう  
と改あらためめるる鴻こう原はらの城しろととははららつつくくりり  
ここ乃のくく波なみ地ぢくくむむふふ乱らん後ご乃の接せつ封ふうよよ  
法ほう令れいと定さだままるるををささててらられれと結むすむむ

正守

侍中卿 之列高力に郷と領と  
後府ごんぷととひく

大権現おほごんげんととひく

長七ながしち年十一月五日病死 十七歳  
法名ほふな栄徹

長次

虎助とらすけ 河内守かわちのり

兄あに正守まさもりが初職はつしやくと給たまはく高力たかちからに郷ごうと領りやうと  
後府ごんぷととひて

大権現おほごんげんととひく

長十ながじゆ四年五月五日よもごかひ後ご五位下ごいげ小  
叙よ一河内守かわちのりととひくお馬おま修しゆ治ちと  
おふおふと上かみ壇だん給たまは仕つか仕つか役やくととひく  
同十九年四月どうじゅうくわんしちごうととひく病死びやうし廿二歳  
法名ほふな琮じやう空くう

女子

女多を即ち女が書早世

女子

晒坂自水正が書早世

隆長

大進大支母は吉田伊豆守の女

長十七年十二月八日

大権現忌路の珠一とひく沙鷹持

ありく忠房が館一入治れ村忠房母

大権現一すまひきくまつる三列伊奈

女多氏乃由緒とひ給ふ母詳一

云上七

大権現沙威あり隆長一と信ふりく

くめく沙前と書一きくまつる

時

大権現りれ竹年書抄とひ給ふ

元和三年日光山

東照大権現御遷宮御時

白瀧院殿沙々山あり海濱岩の峰よ

渡御し給ふ際長らくあけ

白瀧院殿し湯見しきましくあは

年影と同給ひし御服とてあけ

時忠房が母しりり

白瀧院殿しきましくあは

御服とてあは

同四年正月十五日 御座りしとてあは

て

將軍殿し湯見と

同九年八月廿一日

將軍殿し湯乃時京殿しあは

湯立位下りし叙した道大史し何と

長房

長房の補



寛永七年三月二十日

將軍らん安ん一ん湯見ん一ん中興ちゆうきゆう御ご

小姓せうじやうとらわる

日八年二月十五日びやう病死びやうし朽木くも氏部うぢべがら福ふく

種たね總そう 上かみ使しとらくら事ことりら糸いとよし

政房まさむら

左京さきやう亮りやう

寛永七年五月

右みぎ德院とくゐん殿どの

將軍しやうぐん安ん一ん湯見ん一ん中興ちゆうきゆう御ご

右みぎ德院とくゐん殿どの 作しやう子しとらふら家け

同九年

右みぎ德院とくゐん殿どの 亮りやう御ご乃の後ご

將軍しやうぐん安ん一ん湯見ん一ん中興ちゆうきゆう御ご

總そう領りやう御ご書しよとらはらとら心こころ

家乃紋横木札

高刀氏代に三列ありと之

とも云方より進仕しと十六騎の

目なり是よりより相れ紋と

と海より

畠野とらの

え小條氏ちり傳へく相模次郎時行

が未流とて先祖教代伊豆の國田中

と能く是よりく泰行ふより

小條氏とありたりと回中一と稱を

後一融成一ありて小條氏改乃

命一よりく又板形畠一改むる

後秀吉に命じりて討つるに  
とつて  
とつて  
とつて

集

小條吉長討つ 生國伊豆  
明應二年伊豆國野島に討死  
法名幻心

奉行

田中訥中守 生國河内  
小條氏康に属して討つて死  
とつて 小條氏康其軍功を賞して  
天正六年十二月二十三日小田原に  
とつて 死して歳九十九 法名淨心

融成

墨野越中守 生國河内  
利發に討つて死して母若木按津守の女

氏政とひ氏直と一に子附小氏政  
後板部墨林と名を遺り此地を  
与り七とつと融成と名補せらる  
氏政に命をうけり中と名た  
めく板部墨林と名を遺り又外舅岩平  
坊清と名を遺り此と名を力に士と名  
て又融成と名を付し是より冠祿日  
日より進んじ  
氏列岩付に城を小澤源五郎死すに

後江雪城番と名を遺り此城と十島氏房  
了たす  
氏政氏直と陣に付たりと融成  
と名を遺り小田原に城と名を遺り

天正十年

大指現甲列と名を遺り小澤氏と婚姻と名  
事と約したまふ附小江雪使節  
と名を遺り後府及び濱松と名を遺り  
酒来れ附日と名を遺り

大指現御使と小田原へ付りてたす

時は江雷の事す養者も形も才也

外武田晴信勝頼及び國東元徳將也

使と小田原へつりて度少は江雷こ

せくく是と此の事也

日十六年秀吉小條氏が志すはさる

事といふ時小條氏より英治寺

氏親と使わしてと海せむ秀吉

とて悦ますら対面

あゝ  
もと小條氏と海に儀と約して氏親  
國へ海へ

日十七年氏政より江雷と使わして

てと海せしむと列江田に據

と給て父子中一人と海に

すべしと秀吉悦く是と好し

すまら江雷と海にみづら茶

とて海より無情ありてすくみ

て江雷國へは

同年八月秀吉留田將監津田集久正  
しおのぞく沼田乃城と小條氏小長  
家しとひく小條氏より總城と信吉  
とやがして是とけしし  
すかろち小條本房吉氏郡是とあり  
時り氏郡が信吉後能水吉とあり  
若命とけしししとけししとありし吉田  
か宗久る兵隊とけししとありし吉田  
しりく是と秀吉しししとありし家

をひく小條氏を是を馬元と使し  
て信吉が楚忽れししとありししし  
秀吉移りししとありししししし  
しししししししししししししし  
同十八年秀吉小田原と征伐ししし  
しししししししししししししし  
尾張守使と秀吉ししししししし  
せんしししししししししししし

一乃一既一志一事一河一た一尾一張一書  
（一乃一既一志一）  
 一と一書一し一終一れ一遂一し一切一腹一せ一む  
（一と一書一し一終一）  
 一是一し一り一城一中一騎一勅一を一家一小一と一ひ一く一秀一右  
（一是一し一り一城一）  
 一仍一く一和一漢一と一乞一氏一垂一と一く一城一と一也一  
（一仍一く一和一漢一）  
 一し一む一氏一垂一城一を一也一於一附一室一談一と一江一書  
（一し一む一氏一垂一）  
 一し一あ一つ一け一ら一家一江一書一本一を一し一む一く  
（一し一あ一つ一）  
 一志一れ一を一守一護一と一秀一右一遂一し一氏一政一と  
（一志一れ一を一守一）  
 一て一自一殺一せ一り一小一田一原一城一を  
（一て一自一殺一）  
 大権現一し一あ一つ一け一た一ま一み一附一小一江一書

大権現一し一湯一見一し一き一く一ゆ一り一市一丸一と  
（大権現一し一湯一）  
 一お一渡一し一く一所一家一を一故一氏一垂一に一前一  
（一お一渡一し一）  
 一し一り一て一城一中一始一終一れ一事一と一く一家一秀一右  
（一し一り一て一城一）  
 一乃一命一し一し一り

大権現より力河内守成瀬伊賀守より  
（大権現より力河内守）  
 一江一書一し一回一し一く一の一し一海一く一吉一平一山一條  
（一江一書一し一）  
 一氏一海一と一て一よ一海一せ一り一の一く一い一く一も一  
（一氏一海一と一）  
 一江一河一城一と一終一り一又一子一の一中一一人一よ一海一也  
（一江一河一城一）  
 一し一よ一し一く一く一お一約一し一今一其一と一と一愛一也



是は條孔偽、他汝の偽、以書吞くいふ、  
去年我ら海に討ちて也、秀吉の  
戦して使に事と述、今も又其面よ  
とよす、す、自勉とつみ、色、  
すと、い、使、取、け、い、と、と、

大権現、使の、と、と、  
海、秀吉、大、い、り、て、以、書、を、う、れ  
い、い、い、い、小、相、械、具、と、門、乃、  
と、と、小、ま、う、け、以、書、が、の、脇、指、と、奪、取、

た、た、れ、と、引、張、て、秀、吉、に、前、小、し、き、と  
抱、秀、吉、と、つ、縄、と、持、ま、く、い、り、て、い  
と、く、去、年、海、に、海、と、海、と、小、條、と、和、侯、に  
事、を、約、と、と、い、と、も、今、其、旨、に、う、む  
き、と、下、れ、告、と、う、こ、う、と、海、島、代  
れ、自、君、と、海、ら、が、と、事、は、是、汝、が、お、為、  
あ、う、す、や、以、書、吞、く、い、ふ、と、海、島、代、  
謀、叛、れ、心、な、り、皆、是、は、下、れ、し、を、お、ち、り  
き、り、と、小、條、威、已、入、事、と、天、運、を、う、ん

魚れ及取らあらず 網一袋減とせぬ  
とふも一びと下れとせとていん  
事ハ武吉れ 面目ちりあ又我君婦  
んあふとひく我自ら志すつづ  
く何ぞ敵り屋すぐんやけ外別  
つづ事なり一兵福がくけあを我  
首とたねくまん事とてく秀者  
れがをれいけきく我氣れたゆきけ  
く感とくまう一教也とわあくい

く汝が罪をくをり 刈てあけり  
わく京都へ送り三條河原へ磔す  
き老なりも今汝が汝男とわりて  
我があへまらわもけくす  
ととやけいしを海へふとん  
くめけり老なり忠義れりり勇士  
れ道とけくせり我其こくわれ  
感とく汝が死罪とゆり今り後  
我りつて忠とてまへり

て子一 持下 繩を 以 雷 小 方 あり  
う けり 後日 小 進 之 手 仕 事 あり  
板 船 是 之 あり 之 あり 之 あり 之 あり  
文 祿 元 年 秀 吉 朝 鮮 之 征 せん あり  
北 列 名 儀 屋 一 一 陣 あり

大 権 現 も 同 一 一 陣 一 陣 小 之 列  
下 書 之 儀 之 多 賀 之 修 理 大 丈 唐 之 病 之  
一 一 龍 舟 一 秀 吉 之 あり 一 一 之 あり 一 一 之 あり  
之 あり 之 あり 之 あり 一 一 子 細 之 同 志

め 込 ろ

大 権 現 一 一 あり 之 一 一 針 伊 之 之 獨 惠 政 林 原  
或 之 補 康 政 之 持 一 一 一 軍 古 之 夜

一 一 一 下 書 小 卦 一 一 之 あり 一 一 之 あり  
多 賀 之 儀 之 時 小 之 雷 旨 之 述 之  
今 度 其 方 不 系 之 之 料 一 一 一 莫 令 之 之  
と 之 あり 一 一 一 之 あり 多 賀 之 儀 之 之 あり

一 一 一 之 あり 一 一 一 之 あり 一 一 一 之 あり  
て け 一 一 一 之 あり 一 一 一 之 あり 一 一 一 之 あり

抄りしたまふ

長五年石田三成謀叛いぶらかりひやんの穴あな掘くり

中なかつ納のう之の秀ひで秋あき始はじめはは之の成なりととし

命いのちとと後のちににころころし

大権現おほいけんげん通とほ山やま道みち河原かわら屋や

又また河かわ原はらととああひひくくひひくくむむりり

正ただ二ふた河かわ原はらととああははるるす

同年

大権現おほいけんげん山やま陣ぢん小陣こぢん秀秋ひであき

カゴ

足将あしむら十人じゅうにんととけけるる志しののびびれれ者もの

道みち河原かわらとと河かわ原はらととああははるる具ぐ三さん成なり

謀叛ぼうはんのの事ことととううががああははるる様さま

小陣こぢんととああははるる小陣こぢん

平たいららくく

同五年九月朔どうごねんしゅうがつしやく

大権現おほいけんげん通とほ山やま道みち河原かわら屋や秀秋ひであき

足将あしむらととああははるる度どととああははるる

忠節ちゆうせつととああははるるす

同十五日

大権現之成と関ヶ原せきがはら一戦いくさを討うち  
秀秋ひであき約やくとたたくすね尾山おしよりお谷おや之成  
既すでに敗くれし

大権現即日秀好ひでよしより逢坂おうさかへ今度こんどの  
軍功ぐんこうを賞あづかりし秀好ひでよし曉あけより言いふも  
一いつ列り取とり山やま列り取とりは是こゝに成なり  
が石城いしがきよりて兄あに壺ひつ以も一成いちじょうが海うみりり取  
かり聖せい皇こう

大権現おほごんげんの書がきを御使ごしとして秀秋ひであきよりあて  
りし海うみへく明あきる関せきヶ原がはらよりととく戦いくさ功こう  
と既すでに取とりし又また長途ながとちと弛ゆるく  
取とり山やまと取とり其その方かた所ところをくすべしす  
且また長谷ながせの式しき形かたち少すく猶なほ秀頼ひでたかの使しとて  
取とり山やま列り取とりはあり今日こんにちの事ことを  
城しろとわべは美み切き裂れれあり志こころありと  
みと接つりて園そのとわらへり  
かり秀好ひでよしより一いつりりくし給たまふ

家として長谷川城と  
 大権現天下一統  
 以需きとして仕  
 地とたまたま  
 日十四年城列伏見  
 歳七十日 法名傑翁 源英大居士

房垣ふろ

平多忠尉 生園相模

始は岩付の城より小原十郎氏房より  
 時小諱の字よりなり房垣と号す  
 天正十八年秀吉小田原の城とて  
 時小氏房城守ありあり氏房が俊光  
 とし比諸古皆岩付の城より五月  
 二十日秀吉の岩付の城と攻大正  
 のせめには淺野彈正忠長が中務の備  
 忠勝安久戸代せめには本村吉之隆外  
 同派市右衛門尉新井猛代せめには鳥井

表右馬射元忠平若日斗以親者なり  
大手孔せ免に孔若況し橋きはりせち  
城中新井橋の橋にり士卒を  
あしききりし鉄炮とるるし  
いども平若鳥井士卒若せ免入  
お戦是しりり城中新井橋の  
大井橋とび内宿し引返下敵を  
競ふの家しをひく新井橋に又  
大子にり引返時り房垣後内宿に

城戸にりあひ己乃割れ初より午れ  
割乃終しりお戦ふ事とるる三度  
其間敵二人と突たとせ一人  
即後是と討ね之度しをくし時  
あせをくしあ若は房垣に後三人  
なり山に平内山角表三郎表我成  
とり若あり事りく房垣しりり  
是しりりく人しりり家しをひく  
敵數十人とあひしりり山に山角

之討死を敵乃將平岩が才物ある又  
討死し房垣之突少せられて即後是  
と少く家しをひく味方共大に  
うりきこりくは敵もまうこぬく  
うりたく印物揚り追おはる城中  
も又門と団家しとひく和談が成る  
平岩が総下り村井をたすといふ  
あり暁しをひく叫ていへ今日  
城中赤白為遠け打け乃武者と

姓と合とる名字はしりふら  
ぬらうぐしといふ志れは房垣を  
底とくうが故し郎兵衛て是し  
谷の翌日和睦事調く城と後し  
てはるあり付

將軍松平お言さすといへる房垣  
初と御尋あり付小とこれ報く乃  
天正十九年城列聚樂しをひく



大権現といふ一し若福し一しキく一しウウ  
同年奥羽わが九く於い一し揆さ返さい浪いら時ど

大権現い一し志し一しグく一しウウ

文祿元年朝鮮征伐乃時せいせんせいど

大権現い一し志し一しグく一しウウ一し名な護ご全ぜん

此陣この一し在あ

萬曆五年京勝と退治れし馬げら

乃時信の一し一し小山こ一し一し家け

同年冥まケけ京け沙さ陣じん一し信しん奉ほう

日十九年乃よ一し羽う之の年ねん大おほ坂さか西にし度ど御ご陣じん  
一し志し一しグく一しウウ

元和二年駿府一し一し信しん一し一し一し一し一し一し

台渡院たい敷し一し付つ一し一し一し一し一し

同九年

將軍しやう一し一し一し一し一し一し一し一し一し

寛永元年鉄炮てつ回かい向むか一し一し一し一し一し一し一し一し一し

御ご加か宿しゆくとと為な館かん一し一し又また布ふ衣いとと志し一し一し一し一し

事こととと抄しょう乃の所しよ乃の

同日年騎馬さび同人とあづらふ  
日十年御加儀かぎを領りやうす

成明 なりあき

内苑うちえん元 生園なまき茂苑

元和五年

台座院たいざえん殿との 湯ゆ 〓 〓 〓

寛永元年八月

將軍しやうぐん 〓 湯ゆ 〓 〓 〓

日年十一月よきとし 〓 〓 〓 湯書院ゆまにん 〓 〓 〓

成垣 なりかき

長十郎 生園なまき同と人り

寛永四年十一月

將軍しやうぐん 〓 湯ゆ 〓 〓 〓

日五年十一月よきとし 〓 〓 〓 湯書院ゆまにん 〓 〓 〓

ははとと其その後のち湯書院ゆまにん 〓 〓 〓 役やくととつと

じ

房次

三右衛門尉 生國相模

弱冠より若附に城に小原十郎氏房

に付し諱の字と文

天正十八年小原孫次郎氏房と

は小原孫次郎氏房に付し小原

孫次郎氏房に命じらる氏房

に隨ひて野山にのりて氏房

吉川後英徳守氏盛小原孫次郎氏房

に付し氏房と

文長九年伏見に城に

大権現に

頼宣邸に

同十六年九月二十五日後府小

死に歳二十九 法名通智

英明

指在<sup>あ</sup> 生<sup>な</sup> 玉<sup>たま</sup> 持<sup>も</sup> 津<sup>つ</sup>

孝<sup>たか</sup> 長<sup>なが</sup> 九<sup>く</sup> 年<sup>ねん</sup> 英<sup>えい</sup> 明<sup>めい</sup> 五<sup>ご</sup> 歳<sup>さい</sup> 時<sup>とき</sup> 祖<sup>そ</sup> 父<sup>ふ</sup> 以<sup>も</sup> 雷<sup>らい</sup> 也<sup>なり</sup>

一<sup>ひと</sup> 伏<sup>ふし</sup> 見<sup>み</sup> 球<sup>たま</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup>

大<sup>おほ</sup> 權<sup>ごん</sup> 現<sup>げん</sup> 一<sup>ひと</sup> 湯<sup>ゆ</sup> 見<sup>み</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 雷<sup>らい</sup> 也<sup>なり</sup> 造<sup>ぞう</sup> 治<sup>ち</sup> 也<sup>なり</sup>

一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup>

一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup>

一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup>

也<sup>なり</sup>

元<sup>げん</sup> 和<sup>わ</sup> 二<sup>に</sup> 年<sup>ねん</sup> 正<sup>せい</sup> 月<sup>げつ</sup> 七<sup>しち</sup> 歳<sup>さい</sup> 時<sup>とき</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup>

一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup>

大<sup>おほ</sup> 權<sup>ごん</sup> 現<sup>げん</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 湯<sup>ゆ</sup> 見<sup>み</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 雷<sup>らい</sup> 也<sup>なり</sup>

一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup>

日<sup>にち</sup> 九<sup>く</sup> 年<sup>ねん</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup>

将<sup>しょう</sup> 軍<sup>ぐん</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup>

寛<sup>かん</sup> 永<sup>えい</sup> 三<sup>さん</sup> 年<sup>ねん</sup> 小<sup>せう</sup> 十<sup>じゅう</sup> 人<sup>にん</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 祖<sup>そ</sup> 父<sup>ふ</sup> 以<sup>も</sup> 雷<sup>らい</sup> 也<sup>なり</sup>

一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup> 一<sup>ひと</sup> 也<sup>なり</sup>

同五年布衣と志しる事と持り

しり

同十年より御書院番に組以て候

しり

同年又御加増とす

孝明

自税助 生玉武就

寛永九年十月

將軍家より賜

同十二年十二月より御書院番と

しり

貞明

孫九郎 生園日守

寛永九年十月

將軍家より賜

同十五年正月より御書院番と候

少

少  
乃  
級  
鳩  
酸  
草

平野ひらの

上野うの女に平へ野の直ち方か孫まご水みづ糸いと乃の流ながるる

● 美久みく

尾お列り津つ嶋しま乃の伯おきな人ひと 平へ野の入い道みち水みづ号ごう也なり

長治ちがひ

大東進おほひがし

実多様二位清系に枝實の子なり  
萬久喜とて子とて故に平野と  
信長とて秀吉とて

長泰

遠江守 生國尾張津

天正七年秀吉海軍  
日十一年秀吉築田とせり此志津嶽

一とて合戦し乃時長泰大將  
了信を一騎とせむし秀吉  
眼前しとて一騎とありし時  
くすむ者七人せし是と七人  
と子築田印付し敷水一戦  
くすむとて功しとてくこ  
殆り威状ありし故秀吉と陣  
度とて小信奉しとて戦功  
とお



文祿四年志津嶽孔軍功せんじゆくの勲いさなに  
かたじけなくと評しつゝ和列十市の勲いさな  
もとほしく五子ふと飲正感状あり  
是又長三年三月十五日を以て姓を  
より改むとす叙し孝行も小何れ  
同十九年大坂御陣の節長泰は  
あり勲とすぬよりて後府より  
しるべし

大権現に始りしより又長泰より福徳

黒田が友号と曰くは戸とせり  
名徳院殿又こゝ小母とくは  
寛永五年に卒すと歳七十

長重

九代奉 生國日前

織田城外に忠ししに之は秀吉よ

しる

天正十一年に志津の嶽より

秀吉は東國とせしむる時七中鐘の  
傍ありて軍忠あり

萬曆五年

大指現開ヶ原沙書馬乃時信をよむ

大坂沙陣あり信をよむ

元和二年あり

白旗院殿ありてそまらる

日八手あり

將軍家ありて所人ありてあり

今名隠居法新ありて長元と号と歳  
八十二

長利

清和天皇 生國抄

元和九年あり

將軍家ありて所人ありてあり

長勝 ちかかつ

指平 生園日記

元和元年

台座院殿とて

將軍とてしるる

寛永五年家督とて継いで和列十市

郡五石とて

家乃紋之辨

長治実父系

● 天武天皇 — 舎人親王 — 御孫 — 小倉

高野 — 海雄 — 房別 — 業恒

大綱

廣院 — 頼隆 — 定隆 — 定康

礼澄 れいじやう

赖業 らいごう

仲澄 ちゆうじやう

良業 りやうごう

赖尚 らいじやう

良季 りやうき

良枝 りやうえだ

宗尚 しゆじやう

良通 りやうとう

宗季 しゆき

良贤 りやうけん

赖季 らいき

宗業 しゆごう

良宣 りやうせん

宗贤 しゆけん

后二位

后二位

宣贤 せんけん

后二位

環翠軒 えんすいけん と号 ごう 止

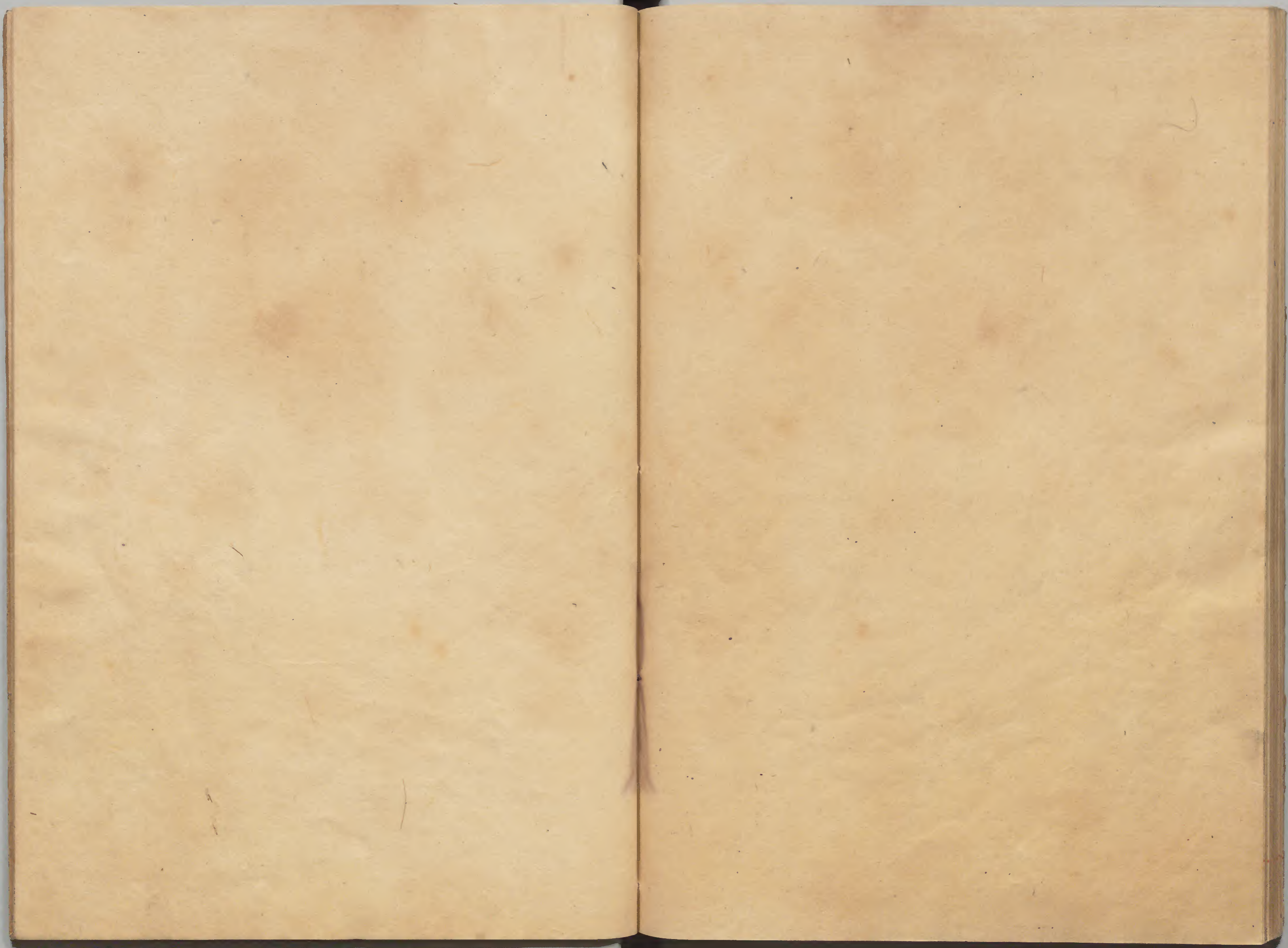
業贤 ごうけん

后二位

枝贤 えだけん

后二位

长法 ちやうぽう



平野

● 勝表

隠波 生國安房  
里見安房守義廣

勝茂

次郎左衛門 生國河

將軍家<sub>ノ</sub>一<sub>ノ</sub>所<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>所<sub>ノ</sub>家  
寛永十七年<sub>ノ</sub>死<sub>ト</sub> 法名<sub>見<sup>ル</sup>書</sub>

勝貞 ハチジメ

指<sub>ノ</sub>物 生國<sub>何<sub>カ</sub></sub>

將軍家<sub>ノ</sub>一<sub>ノ</sub>所<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>所<sub>ノ</sub>

勝長 ハチジメ

治郎<sub>物</sub> 生國<sub>何<sub>カ</sub></sub>

將軍家<sub>ノ</sub>一<sub>ノ</sub>所<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>所<sub>ノ</sub>

ハチジメ  
家<sub>ノ</sub>一<sub>ノ</sub>所<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>所<sub>ノ</sub>

